

平成22年度第2回秋田県中山間地域等直接支払制度に関する検討委員会  
議事録

日時：平成22年9月16日（火）午後1時20分から  
場所：にかほ市象潟町横岡 横岡自治会館  
出席者：長濱健一郎、渡辺伸也、尾崎秀子

議 事

1 現地視察

横岡集落協定農用地 N = 3カ所（傾斜地形、水路管理、道水路管理）

2 意見交換会（横岡自治会館）

（1）事務局 （農山村振興課農山村ビジネス推進監より挨拶）

（2）議長あいさつ （長濱健一郎委員長）

- ・ この制度が始まって10年超がたったが、人口が減っていくこの日本という国は、国土に人が手をいれてきた国。特に中山間という条件が不利な所をどうやって維持していくのかというのは、国全体としての課題になる。条件不利というのは、農業だけでなく色々な生活の面やその他の面もあるが、今日は秋田県の条件不利地域がどのように維持されているのか、どのような所があるのか勉強させてもらいにきた。
- ・ 制度そのものの評価等もやらなければいけないが、まだ課題もたくさんあるかと思う。制度のこういうところが使いづらい等を教えて頂ければと思う。

（3）集落協定の概要説明（佐藤前会長、斎藤会長）

（4）意見交換

渡辺副委員長

- ・ 現在、集落の人口が約380人だということだが、過去の推移を教えてください。
- ・ 集落内の結束が固いと聞いた。農家82戸のうちほとんどが兼業農家であるということで共同活動の作業が大変だと思うが、この集落内ではどのように調整しているのか。

#### 佐藤前会長

- ・戦後は117戸。460～500人位いたのではないかと思う。  
昭和の8年は約600人いた。電力や帝石関係者がいたためと思う。  
4年前には約420人、今380人なので減少してきて若干寂しい  
感じはするが、周辺の集落と比較すると比較的よい方じゃないかと  
感じている。

#### 齋藤会長

- ・この集落は4支部に分かれており、普請頭を各支部2名ずつ選任  
し8名の普請頭が1年の各普請計画を組んでいる。
- ・事業は、兼業農家なので日曜日に実施している。
- ・中山間制度がなかった時は「出劣(でおり)」といって作業にでら  
れない人が普請の日当を支払う形式としていた。今でも「出劣(で  
おり)」はあるが、出席すれば中山間制度の方から日当が支払われ  
るということで以前より協力者が多い。

#### 長濱委員長

- ・日当はいくら払うのか、収入は自治会にはいるのか

#### 齋藤会長

- ・日当は 円、半日だと 円
- ・収入は普請頭に入り、普請が終わった後の直会の経費に充てている。

#### 長濱委員長

- ・老人クラブは何人位いるのか
- ・地域の組織はどのようなものがあるのか

#### 齋藤会長

- ・老人クラブは約130人
- ・子供会、消防団、婦人部と若妻会がある。青年会は消滅した。
- ・4支部の生産団体があり、農協関連の活動をしている。
- ・集落営農組織もある。

#### 長濱委員長

- ・農家82戸あって協定農業者が82人というのは農家の代表が協定  
者となっていると推定する。昔は1戸から1人が作業へ出席してい

たと思うが、今はどうなっているのか。  
日当の金額は誰が出席しても一緒か

齋藤会長

- ・基本的に1戸から1人の出席。
- ・日当の金額は同じ。以前は女性の出席へ差を設けていたが、やめた

長濱委員長

- ・独居世帯はあるか。独居世帯の人も出席できなければ払うのか

齋藤会長

- ・独居世帯はある。独居世帯は特別に免除している

長濱委員長

- ・交付金を集落協定で半分使うのは評価としてどうか、元々は平場との生産コストの差額を払うのだから個人に払うべきだろうという意見もある。どういう評価をしているか

齋藤会長

- ・田の面積の大小で、面積の大きい人の負担が多いのではという声もあったが、集落全体で取り組んでいるということで納得してもらっている。

長濱委員長

- ・この制度によって 万円位が個人に入り、同じ額が集落に入ることから、毎年この集落に 万円の事業費ができたことになる。

長濱委員長

- ・今後の目標として協定農用地の拡大とあるが、現在把握している対象となる農用地面積はどのくらいあるのか

齋藤会長

- ・現在取り組んでいるのは ha。整備計画を立てて、傾斜がとれなく対象外としている農地付近の管理も実施している。
- 今年新たに入ったのは横岡6とかかれた部分。

長濱委員長

- ・本来なら傾斜があり対象となるが、維持が困難で除外している農地はあるか

斎藤会長

- ・そのようなところはない

渡辺副委員長

- ・ブランド米としてパッケージして直販する計画等はあるか
- ・パッケージ写真等で手に取る客がいると思う

佐藤前会長

- ・構想はあるが、現時点では実施していない
- ・インターネットを活用した販路計画もある。

長濱委員長

- ・区との交流はどのような経緯で決まったのか

にかほ市

- ・昨年度の イベントの打合せ時に、区が都市農村交流の相手を探していたという経緯がある。

今年度、にかほ市主催でグリーンツーリズムのワークショップを実施していたが、横岡集落の婦人部で横岡集落に受け入れしたいとの申し出があった。

尾崎委員

- ・現状では作業を集落内でまかなえていると思うが、高齢化が進むと現状でやっていけるのか。他から手を借りるとするのは考えていないのか

斎藤会長

- ・将来的にも普請対応でやっていけると考えている。  
農地についても、高齢化になった場合は集落営農的な組織に委託することになると思う。

尾崎委員

- ・共働きの兼業農家が多いのか
- ・集落内で土地を集積して活動するのも難しいのか

斎藤会長

- ・共働きの兼業農家が多い

佐藤前会長

- ・横岡集落営農の会長をしているが、いずれはできなくなった方々から農地を借りて広範囲にやっていかなければならないと考えている。集落営農組織の構成員は15名いるが、みんな同じ気持ちを持っていると思う。

尾崎委員

- ・地域内だけでやっていくにはかなり無理がでてくると思われるが、新規就農希望者を他から受け入れるなどの考えはないのか
- ・若者を外部から受け入れ、地域全体で育てるようなことを考えていただきたい

佐藤前会長

- ・すばらしい考えだと思う。
- ・しかし、この地域は他の地区と違って意欲をもった農家が多いのが特徴。そこまで深く考えていない状況だと思う

尾崎委員

- ・後継者は元気なときに考えていないと間に合わないし、教えられない。10年先を見越すと手を打つのは今ではないかと思う。この集落だけでなく付近の農地も引き受けるとなると手が足りない。ここの集落がこの地域の中心になるという意気込みで、後継者養成に努めていただきたい

渡辺副委員長

- ・農業機械は平場と同じものを使っているのか

斎藤会長

- ・平場と同じもので変わらない。

長濱委員長

- ・川の上流部での維持管理は下流にとってメリットがある。  
にかほ市の企業が社会貢献として畦畔の草刈り等の作業をボランティアでやってもらう等の関係ができれば1つのモデル的になるのではないか  
平場の上流が維持されるのが大事なことを理解してもらうのが大事だと思う。

(5)まとめ (長濱健一郎委員長)

本日の委員会の内容について、私たちの今後の施策の評価の参考にさせていただきたいと考えている。皆様におかれましては、これからも農地を守り継ぎ集落の活性化に向けて、より効果の高い活動を展開していただきたい。

14:55 終了